

ΑΦΙΕΡΩΜΑ
ΣΤΟΝ

ΠΟΝΤΙΑΚΟ ΕΛΛΗΝΙΣΜΟ

黒海ギリシャ舞踊
～平和を願うタベ～



主催・企画・運営：日本ギリシャ協会、
福田 耕佑(大阪大学)、大妻女子大学比較文化
学部渡邊ゼミ

後援・協力：千代田区、フィリップ モリス ジャパン
合同会社、駐日ギリシャ大使館

千代田区文化事業助成対象事業

2024日本・ギリシャ文化観光年記念事業



午前プログラム

10:10

開場

10:30～11:10

講演「ギリシャ音楽への誘い ―古代から現代まで―」(高久暁、日本大学芸術学部
(音楽学・音楽評論))

11:10～12:10

ギリシャ各地 (テッサリア、トラキア、クレタ島、レスボス島、イカリア島、ペロポネソスなど)の文化紹介と舞踊デモンストレーション(ギリシャダンスを楽しむ会ケフィノ解説・渡邊顕彦、大妻女子大学)

「ギリシャ音楽への誘い ―古代から現代まで―」(10:30～11:10)

今日のギリシャの音楽には、古代・中世・近現代ギリシャの地理・歴史・音楽を背景とした、豊かで独特な世界が広がっています。今回のお話では現在のギリシャ音楽の代表的なジャンル、その中に現れる古代から現代に至る諸要素について説明し、さらにギリシャの民俗音楽の特質とその聴取のポイントを解説して続く催しへの橋渡し役を務めることができればと思っています。

概要：

- ギリシャ音楽とは？主要なジャンル
- 現代ギリシャ音楽の中の古代・中世・近現代
- 現代ギリシャの民俗音楽の特質
- 日本とギリシャ音楽
- まとめにかえて

高久 暁(たかく さとる)



専門は音楽学・音楽評論。1980年代末から近現代ギリシャの芸術音楽の研究を志向、1990年代にたびたびギリシャへ赴き、作曲家や演奏家や音楽学者に直接指導を乞いながらギリシャ音楽の調査・資料収集・研究を行う。アジア諸国では数少ない近現代ギリシャ音楽の研究者である。訳書にクログ『ギリシャの歴史』(創土社)。日本ギリシャ協会会報に「ギリシャ音楽の現在地」連載中。日本大学芸術学部教授。

ギリシャ各地の舞踊デモンストレーションと解説(11:10~12:10)

テッサリア:ギリシャ北部から中部にかけて、エーゲ海に面した地域です。アルゴ船が出航した港があり、またアキレウスが幼少時代を過ごした神話の地でもあります。ビザンツ時代のメテオラ修道院群がUNESCOの世界遺産になっています。

舞踊: 1. [Pera ston pera mahala](#) 2. [Trikalini mou perdika](#)

トラキア:ギリシャ最北東部、ブルガリアやトルコに面した地域です。古代より他民族との交流が多く、北方スラヴや東方トルコ・イスラム文化の影響がみられます。

舞踊: [Zonaradikos](#)

クレタ島:ギリシャ世界で最大の島、ギリシャ最古のミノア文明の中心地でもあり、幼少時のゼウスが隠されていた洞窟やミノタウロスの迷宮など、多数の神話にまつわる遺跡があります。近世以降はオスマントルコ、ヴェネツィア共和国、さらにはナチスドイツの支配やそれに対する反乱を経験した波乱の地でもあります。

舞踊: 1. [Syrtos pentozali](#) 2. [Sousta](#)

レスボス島:古代の女性詩人サッポールの島として有名で、古代文献では美女が多いと称されています。三島由紀夫『潮騒』の元となった古代恋愛小説『ダブニスとクロエ』の舞台でもあります。今も古代遺跡が多く残る、エーゲ海の人気のリゾート地です。舞踊: [Ta xylla](#)

イカリヤ島:レスボス島やサモス島の植民地であった、エーゲ海の小島。クレタ島から、父ダイダロスと共に空を飛んで脱出したイカロスがこの近くに墜落したという神話から、イカロスの島と呼ばれるようになりました。舞踊: [Ikariotikos](#)

小アジア:小アジア沿岸は古代からギリシャ民族の植民都市が点在し、ギリシャ文学最古の作品『イリアス』と『オデュッセイア』が誕生したのも小アジア西部(イオニア)とされています。これまでギリシャ、アルメニア、トルコ、クルドなど様々な民族が居住・共存してきました。

舞踊: 1. [Koutalion](#) 2. [Hasapiko](#) 3. [Apo xeno topo](#)

ペロポネソス半島:ミケーネやアルゴス、スパルタなど、神話や古代史で名高い都市が点在する大きな半島です。本土とは狭いコリントス地峡で結ばれていますが、ここを封鎖すれば半島全体が容易に防衛できるため、歴史的にギリシャ民族の砦となってきた土地でもあります。舞踊: [Kalamatiana](#)



ギリシャダンス ”ケフィ”紹介

■ ケフィ

Kefi「ケフィ」とはギリシャ語で 楽しく気分が乗っていてハッピーな状態を表します。

ギリシャ人にとって“ケフィ”があるかどうかはとても重要なことなのです。

■ ギリシャダンスを楽しむ会 “ケフィ”の理念

本場ギリシャで習得したダンスを“ケフィ”のある時に集まり、子供から大人まで一緒に楽しむことです。

■ 例会

毎月第4日曜日

10:00～12:00

入間福祉センター

入会金:なし

参加費:1回500円

問い合わせ: rkoak.kefi@gmail.com

090-4533-4381 柏木

■ ギリシャダンスとは

ギリシャの伝統舞踊は、島や各地域により衣装や音楽、踊りが異なり家族や友人と手を取り合い、時には肩を組みながら踊るフレンドリーなダンスです。

ギリシャ神話に由来するものから、トルコとの戦争に関係する踊りまで、その数500以上とも言われております。

午後のプログラム

13:00～13:30

主催者・来賓ご挨拶

13:30～14:30

黒海ギリシャ伝統衣装(山岳衣装、都市部衣装など)
(Mithrioi)

14:30～14:45 休憩

14:45～15:45

黒海ギリシャ伝統音楽と楽器(リラ、太鼓、笛、バグパイプなど)(Mithrioi／千賀景、民族音楽研究家)

15:45～16:00 休憩

16:00～16:30

ZOOM朗読と解説:「黒海ギリシャ語方言の詩」(
Sofia Iakovidou、詩人／解説・福田耕佑、大阪大
学)

16:30～16:45 休憩

16:45～17:45

ZOOM講演1)「黒海ギリシャ人の歴史」
(Theodosios Kyriakidis、テサロニキ大学付属ポ
ントス研究所)

ZOOM講演2)「黒海ギリシャ人の歌謡」
(Konstantinos Karakasidis、黒海ギリシャ音楽作
詞家・研究家)

17:45～18:00 休憩

18:00～19:00

黒海ギリシャ舞踊の夕べ～理論と実演
(Mithrioi)

主催者、来賓ご挨拶 (13:00～13:30)

日本ギリシャ協会会長
三井住友海上火災保険株式会社常任顧問
柄澤 康喜 様

日本ギリシャ協会名誉会長
駐日ギリシャ大使
ニコラオス・アルギロス 閣下

日本ギリシャ協会理事
共立女子大学名誉教授
サラミナ市名誉市民
木戸 雅子 様

千代田区役所
地域振興部文化スポーツ担当部長
佐藤 尚久 様

メッセージ(代読)
フィリップ モリス ジャパン 様

大妻女子大学副学長
国際センター所長
小川 浩 様

Μονή Παναγίας Σουμελά



ポントスの奥深い山の中に4世紀に建てられてた
パナギア・スメラ修道院。多くのポントス・
ギリシャ人たちが故郷を離れることを余儀なくされ
た1922年まで修道院として用いられた。過去にお
いては精神的な中心地の一つであり、また現代で
もポントス・ギリシャを象徴する場所の一つであ
る。

黒海ギリシャ (ポントス)

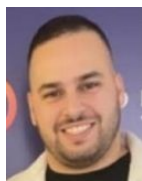
黒海ギリシャ人 (ポントス人) とは: 紀元前より黒海沿岸部 (現ウクライナ、ロシア、ジョージア、トルコ、ルーマニアなど) に居住してきたギリシャ民族。現在も同地域に少数派として分散・居住しているが、その多くは 19～20 世紀にかけてギリシャ王国・後ギリシャ共和国に移住した。古代より、ギリシャ本土を含む他地域とは異なる独自の発展を遂げたギリシャ語方言や文化的諸習慣を今に伝える。イエシム・ウスタオール監督トルコ映画『雲が出るまで』(2003 年サンダンス・NHK 国際映像作家賞受賞作) などに取り上げられている。

Mithrioi紹介 (ミトリ)



ギリシャ北部テッサロニキ県カラムリア市に拠点を置く。黒海ギリシャ(ポントス)人の子孫が中心となりその文化伝統の継承を主な目的とする文化団体である。2004年の設立以来、様々な講習や地域貢献活動を行っている。2022年には京都でも講習を行った。

来日・出演のMithrioiメンバープロフィール



1: ハラランボス・キルマニディス (Charalambos Kyrmanidis)。1995年テッサロニキ生まれ。父のパナギオティスが舞踏教師の代表であったこともあり、幼少期は三歳よりポントス舞踏に携わってきた。2011年よりテッサロニキとハルキディキの様々な団体において舞踏の教授を行うようになり、米国やドイツなどの様々なセミナーにおいて舞踏の教授を行った経験を持つ。さらに、2022年には京都でポントス文化に関する講習を行った。



2: パナギオティス・キルマニディス (Panagiotis Kyrmanidis)。1961年テッサロニキ生まれ。幼少よりポントス舞踏を学び、1980年よりポントス舞踏の教授を始めたが、ギリシャのあらゆる地方の伝統舞踏の教授も行っている。欧州や米国、また中国や日本でポントス文化紹介に携わり続けている。



3: マリア・ピリア (Maria Pilia)。1994年テッサロニキ生まれ。幼少期よりポントス文化協会に参加している。専門的にはポントスのギリシャ人の装束の主題に携わっている。2013年より精力的に様々な講演においてポントス人の装束に関する講義を行っている。



4: ヤヌラ・フロル (Yanoula Florou) 1963年テッサロニキ生まれ。ポントス人難民の第一世代と第二世代との交流を通して幼少期よりポントス料理に親しんだ。ポントス料理研究に携わっており、ギリシャの大手食品チェーンであるマサーティスが開催したポントス料理普及のための講演では中心的な役割を果たした。



5: ソクラティス・ムラティディス (Sokratis Mouratidis)。1998年ヴェリア生まれ。2007年から今日までポントスのリラを演奏し、2014年から今日までその教授を行っている。2022年より「ミトリ」の首席演奏者を務めている。その他のポントスの楽器の演奏もする。



6: ヨアンナ・チャディラ (Ioanna Tsantila) 2000年ヴェリア生まれ。2023年より「ミトリ」の会員。3年間ラリサのポントス人学生協会において、そして文化協会メシスで5年間ダンサーとして参与している。

黒海ギリシャ伝統衣装(山岳衣装、都市部衣装など) (Mithrioi) (13:30～14:30)



ポントス・ギリシャ人が実際に身に着けていた民族衣装について、どのような種類があってどのような人がどのような時に来ていたのかを実物と写真を用いて解説する。

黒海ギリシャ伝統音楽と楽器(リ ラ、太鼓、笛、バグパイプなど)(Mithrioi／千賀景、民族音楽研究 家)(14:45～15:45)



ポントスのギリシャ人を象徴するアイコンの一つである弦楽器のリラを中心に、太鼓や笛などの伝統楽器を紹介し、実際の演奏を通してポントスの音楽を味わう時間としたい。

ZOOM朗読と解説:「黒海ギリシャ語方言の詩」(ソフィア・ヤコヴィドウ (Sofia Iakovidou)、詩人／解説・福田耕佑、大阪大学)(16:00～16:30)

主題: ポントスの詩歌と文学

ー昨日から明日へー

本講演はZOOMにて行われる。ヤコヴィドウが以下に記載内容で講演を行い、福田が通訳を行う。

- 1: ポントス詩と文学について**
- 2: どうして私の先祖の言葉で詩を書くのか?**
- 3: ポントス文学の明日について**
- 4: 私自身の作品について少々**
- 5: 朗読(訳: 福田耕佑)**



Sofia Iakovidou

(ソフィア・ヤコヴィドウ)

ソフィア・ヤコヴィドウはテッサロニキ出身だが、その出自はポントスのカルスとコティオラ（現オルドゥ）にある。テッサロニキ大学工学部で学位と修士号を取得し、西マケドニア大学とテッサロニキ大学で「創作」を学んだ。2015年よりポントスに関する領域で精力的に活動している。メリムナ・ポントス女性協会とギリシャの全ポントス人連盟のポントス方言に関する委員会の運営委員であり、またテッサロニキのエフクシノス・レスヒなどの他の組織の運営員を務めている。2023年末よりポントス学研究委員の成員であり、ネアポリ市とシケオン市の市評議員に選ばれた。女性のみでなる IFONITIS GYNAIKES SYGRAFEIS という集団とネアポリ市のエスティア・ギネコンという協会の成員でもある。ポントス語での詩作と作詞を行っており、その中には曲がつけられた歌詞もある。ネアポリ市立図書館で一般向けに創作の講義を行っている。ポントス語やポントス文学に関わる国際学会や大会に参加した経験を有する。2024年3月にはメトロモス出版より初となる詩集を『我が魂の海辺』（«Τῇ ψῆς -μὲν θαλασσάκρια»）という書名でポントス方言で出版した。テッサロニキやそれ以外の街で様々な文化活動を企画し、また参加した。だが何よりも最も誇らしく提示したいことは、三人の自慢の息子、パナギオティスとヨルゴスとニコラオスである。



福田 耕佑

(ふくだ こうすけ)

1990年愛媛県生まれ。西洋哲学史と近現代ギリシャ文学を京都大学とテッサロニキ大学（客員研究員）で学んだ。博士（文学）。国際ペンクラブのギリシャ支部会員。現在は大阪大学の特任研究員（常勤）を務めるとともに、京都大学現代文化学専攻で講義をしている。2023年には国際カザンザキス友の会よりカザンザキス作品紹介の推進および同会への貢献に対して「特別賞」が贈られた。ギリシャ語での論文に『ニコス・カザンザキス：極東の視線』（エレナ・アヴラミドゥ編、エネケン出版、2019年）において「カザンザキスとギリシャ性」等。日本語での主著に『ニコス・カザンザキス研究ーギリシャ・ナショナリズムの構造と処方箋としての文学・哲学』（松籟社、2024年）。また翻訳として、2018年にはカザンザキスの『禁欲』、2020年には『饗宴』（両作とも京緑社）、2024年には『日本ギリシャ文化観光年2024』を記念してカザンザキスの『日本旅行紀（カザンザキス・旅する日本）』（ギリシャ共和国観光省、ディオプトラ出版）が対訳で刊行された。

ZOOM講演「黒海ギリシャ人の歴史」 (テオドシス・キリアキディス (Theodosios Kyriakidis)、 テサロニキ大学付属ポントス研究所 (16:45～17:15))

本講演は、古代から 20 世紀初頭に至るまでのポントスにおけるギリシャ人の歴史的な歩みを中心的にとりあげる。複数の歴史期間を通時的に見ていくことになるが、とりわけトレビゾンド帝国と現代史、つまりトレビゾンド帝国の成立年である 1024 年から近現代ギリシャにとっての分水嶺となる 1922 年までを中心にみていくことになる。

ここでは、トルコ人たちによるビザンツ帝国の征服、そしてギリシャ人にとってはその結果としてのオスマン帝国期について触れられる。続けて、ギリシャ人たちの経済、教育、そして宗教的な隆盛について説明し、ポントスの大きな修道院や当地のギリシャ人たちが建設した重要な教育施設などのようなこれらの隆盛のいくつかにも触れよう。さらに、虐殺という問題についても触れられることになるが、暴行と迫害、そして最終的に 1923 年のローザンヌ条約と住民交換調印によって引き起こされた難民化の時代についても触れられる。最後に、ポントスのギリシャ人たちのディアスポラについて、そして今日のポントスのギリシャ人たちがどのようにしてポントスという固有の故郷の記憶を現在まで維持しているのかについて触れる。



Theodosios Kyriakidis

(テオドシス・キリアキディス)

西マケドニア大学で博士号を取得した(近代史)。テッサロニキ大学神学部を卒業した。ドイツのミュンスター大学とイタリアの国立グレゴリアン大学で聴講し、ローマ・ラ・サピエンツァ大学でのポスドク研究員を経てトロント大学で虐殺と人権に関する国際プログラムを聴講した。アテネ大学の古文書学で学位を得た。テッサロニキ大学の神学史科で修士号を得た。英語とイタリア語とドイツ語を話し、またフランス語を読むことができる。文書館の資料を用いた広範な研究を行い、ギリシャでも外国でも多くの学会を企画し、また参加した。ギリシャ、アメリカ、そしてイタリアにおいて成績優秀者に与えられる奨学金や賞を得た。テッサロニキ大学、欧州連合、ギリシャ正教会の聖シノド、そしてカトリック文化協働委員会(Comitato Cattolico per la Collaborazione Culturale)といった他の媒体でも奨学金を得た。ポントスの教会史や社会史、ポントス人等の虐殺やオスマン帝国、そしてコンスタンディヌポリ全地総主教庁とバチカンに関する単著や論文を執筆した。現在はテッサロニキ大学付属ポントス研究所の協力研究員であり、客員としてギリシャ国際大学とギリシャのオープン・ユニバーシティで講義をしている。

ZOOM講演「黒海ギリシャ人の歌謡」 (Konstantinos Karakasidis、黒海ギリシャ音 楽作詞家・研究家)(17:15～17:45)

本報告では、ポントス歌謡のディスコグラフィーから歌詞を登録していくことを通して行ってきた、ポントス語(或いはギリシャ語ポントス方言)の保存の努力について講演する。報告者であるコンスタンディノス・カラカシディスは、ポントス歌曲においてはしばしば歌詞が付されず音楽だけで演奏されることもあるが故に、歌詞を登録して保存していくという文化保全の必要に応じるため「ポントス歌謡」というプラットフォームを作成した。このwebサイトは、ユーザーが歌詞を容易且つ正確に発見することを可能にしているだけでなく、語彙帳と語源の記載をもって言語の保存も促進している。ポントスの伝統を幾年も保存していくという目的のため、新しい協力と内容の追加をもってこのプラットフォームをさらに豊かなものに発展させていく所存である。

Konstantinos Karakasidis

(コンスタンディノス・カラカシディス)



1982年にテッサロニキ生まれ。両親共にポントス人の家系に属しており、このことがポントス文化に関心を持つ契機となった。十五歳の時にポントスのフロゲラとズルナスという楽器(両方とも笛の一種)を独習し、あらゆる媒体で様々な公演を行うようになった。

17歳で警察学校に入校し、ポントス文化活動を行いつつ今日でも警官として奉職している。音楽アルバムの制作を担当し、同時に演奏者としても、また作詞家や作曲家としても他の音楽制作に参加している。

2018年にはポントスのギリシャ人の虐殺から百年が経ったことを記憶するロゴとしての「G」を制作したグループの一員になった。このロゴは様々な国での多くの追悼行事において使用されることになった。

2020年6月には、自身で登録したポントス音楽のディスコグラフィーの歌詞を共有するという目的で Facebookにポントス歌謡に関するグループを作成した。このグループの評判はとてよく、2022年にコスタス・ゲオルギアディス氏と協働で「ポントス歌謡」というwebページを作成することになった。このwebページを通して歌詞の記録を全て体系化した上で全てのポントス音楽のディスコグラフィーの歌詞をアーカイブ化することに成功し、またwebページを訪れる人々に語彙帳を通して語釈と語源の提示することができるようになった。

黒海ギリシャ舞踊の夕べ～理論と実演 (Mithrioi) (18:00～19:00)



実際に楽器の伴奏に合わせて、皆で手を取り合って踊りましょう。経験豊かな講師が初めてポントス舞踏を踊る人でも曲に合わせて踊ることができるように丁寧に指導いたします。



プログラム

午前の部

10:10

開場

10:30～11:10

講演「ギリシャ音楽への誘い ―古代から現代まで―」
(高久暁、日本大学芸術学部(音楽学・音楽評論))

11:10～12:10

ギリシャ各地 (テッサリア、トラキア、クレタ島、レスボス
島、イカリヤ島、ペロポネソスなど)の文化紹介と舞踊デモンストレーショ
ン(ギリシャダンス “ケフィ”／解説・渡邊顕彦、大妻女子大学)

午後の部

13:00～13:30

主催者、来賓ご挨拶

13:30～14:30

黒海ギリシャ伝統衣装(山岳衣装、都市部衣装など)
(Mithrioi)

14:30～14:45 休憩

14:45～15:45

黒海ギリシャ伝統音楽と楽器(リラ、太鼓、笛、バグパイプ
など)(Mithrioi／千賀景、民族音楽研究家)

15:45～16:00 休憩

16:00～16:30

ZOOM朗読と発表:「ポントス語詩の創作と未来」(Sofia
Iakovidou、詩人／福田耕佑、大阪大学)

16:30～16:45 休憩

16:45～17:45

ZOOM講演1)「黒海ギリシャ人の歴史」(Theodosios
Kyriakidis、テサロニキ大学付属ポントス研究所)

ZOOM講演2)「黒海ギリシャ人の歌謡」(Konstantinos
Karakasidis、黒海ギリシャ音楽作詞家・研究家)

17:45～18:00 休憩

18:00～19:00

黒海ギリシャ舞踊の夕べ～理論と実演(Mithrioi)